



# 原木シイタケ栽培でよくある質問

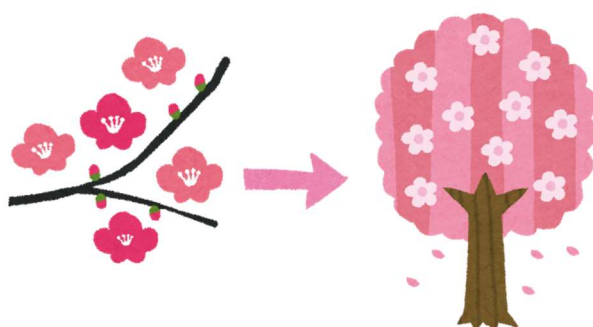
原木シイタケ(香福茸)を栽培することに対し、成長不良等でよく受ける質問について取りまとめました。

参考にしていただき、良質な原木シイタケ(香福茸)を生産していきましょう。

## ① Q: 形成菌を打込む時期はいつまでに行うべきですか？

A: 基本的には2月上旬から4月上旬(梅の開花期から桜の開花期)の寒い時期に植菌するのが一番良いとされています。それ以降は気温が上がっていくため雑菌の活動が活発になり良いほだ木になりにくくなります。

時期的に作業が難しい場合、遅くとも梅雨までには植菌しないとシイタケ菌がほだ木内に蔓延しないため、この時期までに標準より出来るだけ多い数の形成菌を打込んでください。



## ② Q: 植菌をほだ場で行う場合どのようにすればよいですか？

A: 植菌を行うたびにほだ木を移動することは大変労力を使います。

現地で植菌を行うために必要なものは、植菌用のドリルを動かすエンジン式の小型発電機または出力の高い充電式ドリル(300w以上)になります。

小型発電機を使用する場合は長時間使用でき、作業も安定します。充電式の場合は長時間の使用は難しく、ほだ木の本数が少ない場合であれば使用可能といった形になります。

ドリルのほかに、ほだ木を置いて植菌できる作業台などを設置するのも作業効率を上げる良い方法です。



エンジン式小型発電機



充電式ドリル  
(300W以上)



植菌作業台(参考)

### ③ Q:ほだ木の水やりはどのようにすればよいですか？

A: ほだ木は中途半端な水やり(5分程度)は逆に悪影響を与えることがあります。

できればスプリンクラーなどで半日~1日与えるのが理想ですが、水源がないことがほとんどかと思しますので、基本的に雨の水分だけで育てるのが一般的です。

どうしても水を与えたい場合は水分が材の中まで入るように降雨や夕立の後の散水、または数回に分けて散水(30分おき等)を行うと効果があります。



### ④ Q:天地返し等のほだ木動かしはどのタイミングで行うのですか？

A: 基本的にほだ木を動かすことは植菌時、仮伏せ時、本伏せ時、ほだ起こし時のみで構いません。夏場等の渇水の時期にほだ木内の水分を均一化するために天地返しを行うことは効果的と言われています。

ほだ木をまめに動かす行為は良い影響を与えると思われがちですが、動かすことで刺激が発生し、ほだ起こし時の刺激の効果が薄くなると言われています。

刺激の効果が薄くなると、シイタケの発生率が悪くなるので注意してください。



出来るだけ刺激を与えないように

天地返しも  
控えめに



### ⑤ Q:シイタケ(香福茸)採取のタイミングはいつ頃ですか？

A: シイタケの成長は寒くなると成長が遅く暖かくなると成長が早くなります。成長が遅い時は傘が開きにくいいため、大きく丸く育ちます。逆に成長が早いと小さくても傘が開いてしまうため注意が必要となります。おおむね傘が開く気温は12℃位からです。

採取のタイミングは傘の開きと、気温をよく見て採取するようにしてください。

香福茸の集荷日は毎週木曜となっています。出来るだけ集荷日に出せるように調整し、難しい場合は直売所等で販売すると良いです。

